

日本多施設共同コーホート研究(J-MICC Study)  
平成 23 年度 第 2 回研究モニタリング委員会議事録

日 時: 平成 23 年 11 月 4 日(金)14:00~17:00

場 所: 名古屋大学医学部 基礎研究棟 1 階 会議室 1

出席者(敬称略):

岡山明(委員長)、尾島俊之、山縣然太郎、井上真奈美(以上、委員)、  
鈴木貞夫(名古屋市立大学)、  
田中英夫(主任研究者)、浜島信之、若井建志、内藤真理子、森田えみ、銀光、  
川合紗世、岡田理恵子(以上、中央事務局)

1. 平成 23 年度第 1 回研究モニタリング委員会議事録の確認

平成 23 年度第 1 回研究モニタリング委員会議事録の内容を確認した。

2. 研究進捗状況

研究の進捗状況について、2011 年 8 月末で参加者が 57,000 人を超え、J-MICC 連合をあわせ全体で 78,000 人を超えたことが中央事務局より報告された(対象年齢外 約 6,000 名を含む)。また、第二次調査の同意者数は約 5,500 名となり、J-MICC 連合をあわせて約 16,000 名となったことが報告された。委員より、生体試料数と研究協力者数に違いがあるとわかりにくいので、生体試料の集計に関しても研究協力者数を記載することが提案された。

3. 倫理審査の実施状況

食物摂取頻度調査票(FFQ)について、J-MICC Study の付随研究「日本多施設共同コーホート研究で使用されている食物摂取頻度調査票の妥当性・再現性に関する研究」として、愛知県がんセンターの倫理審査委員会で承認されたことが報告された。

4. 第二次調査開始地区の研究計画の検討(名古屋市立大学)

名古屋市立大学の鈴木先生より、「岡崎研究」第二次調査の研究計画、とくに調査票の回収方法、同意取得方法、生体試料は収集しない点などについて説明がなされた。委員より、健診の余剰血液を使った測定を行う場合は、測定項目を明記して同意を取ることが必要であること、研究期間中に健診を受診しない研究対象者について、調査票のみの研究参加を呼び掛けてはどうかなどの意見が出された。また、追跡調査の際の個人情報管理について、整理の必要性が指摘された。

5. ベースライン調査の1年間延長(2012 年度まで)

現時点で研究協力者は 78,000 人を超えているが、目標の 10 万人を目指すため、さらにベースライン調査を延長することが主任研究者より説明された(当初の調査期間 5 年間ですでに 2 年間延長しているが、さらに今回 1 年間延長)。

6. KOPS の胃カメラ検診受診者、および2回目調査時の新規参加者の J-MICC 連合への追加  
KOPS (Kyushu-Okinawa Population Study) (九州大学大学院医学研究院感染環境医学分野) から、同研究の胃カメラ検診受診者、および2回目調査時の新規参加者のうち、同意項目 3 項目を満たす約 2,600 人について、新たに連合としてデータ、生体試料の提供を受けることが報告された。
7. 社会的諸問題検討委員会について  
社会的諸問題検討委員会は発足当初の役割を果たし終えたものとして、今年度をもって発展的に解散することが、主任研究者の田中先生から報告された。これに対し委員より、本件は基本的には主任研究者の判断によるものと考えるが、(自分としては、)大規模ゲノム研究では、内部の ELSI 委員会も必要ではないかとの意見が出された。
8. 横断研究について  
横断研究の進捗状況、および論文作成状況について中央事務局より報告された。
9. 食事調査ワーキンググループについて  
食物摂取頻度調査票の再現性・妥当性の検討について、各地区 24 名、合計 285 名をリクルートし、3 日間の食事記録 4 回と FFQ2 回 (食事記録の前後) を実施予定であることが説明され、実施方法の検討のため、2011 年 7 月 4 日にワーキンググループ会議が行われたことが中央事務局より報告された。
10. 追跡調査ワーキンググループについて  
今後、研究の中心となる追跡調査について、罹患情報の把握方法などを地区間で情報交換・共有し、より能率的な調査が行えるよう 2011 年 8 月 14 日にワーキンググループ会議が行われたことが報告された。これに対し委員より、追跡調査の対象としているエンドポイントを地区別に整理する必要性が指摘された。
11. 災害に備えた生体試料、データの保管体制について  
中央事務局より、フリーザーの CO2 バックアップ強化やドライアイス備蓄などによる現状の対策が報告され、特に電子情報については、バックアップを山形大学 GCOE 拠点形成事務局で保管する取り決めが成立したことが報告された。委員から最新の対策方法などの情報が提供された。
12. J-MICC ホームページの改訂  
J-MICC Study の公式ホームページがデザインを一新して更新されたことが報告された。
13. 学会・論文発表状況  
学会・論文発表状況について、中央事務局より報告された。